鮮やかに彩る四季折々の風景

あらまし

令和７年度の市内観光入込客数は209万人と、前年度から24万人増加しました。市内観光入込客数の内訳としては、道外客83万人、道内客126万人となっており、そのうち、39万人が宿泊客、170万人が日帰り客となっています。千歳市は、日帰り中心の近郊型観光地となっていますが、近年では、ホテルの建設が進み、宿泊客の割合も増えています。

訪日外国人宿泊客延数は、26万人と前年度から６万人増加し、コロナ禍以前の水準に回復しました。

鉄道、高速道路、新千歳空港などの優れた都市機能を持ち、人・物・情報が多面的に結び付く千歳市は、国立公園支笏湖を中心に豊かな自然に恵まれているほか、製造過程等を学べる工場見学や体験農園など多様な観光資源に恵まれています。

「見る観光」と「体験する観光」のまち千歳市は、四季折々に支笏湖まつりやスカイ・ビア＆YOSAKOI祭などの多くのイベントも開催されています。中でも千歳・支笏湖氷濤まつりは、毎年多くの観光客が訪れており、令和７年度は約13万人の来場者が美しい氷像を楽しみました。

市内観光の拠点として、市街地にある道の駅サーモンパーク千歳の施設内には農産物直売所や飲食店のほかキッズスペースが、屋外には大型遊具があり、家族連れでにぎわっています。道の駅に隣接するサケのふるさと千歳水族館には、千歳川の水中を直接見ることができる日本初の水中観察室、サケや北方圏の様々な淡水魚を観察できる大水槽のほか、リニューアル時に整備された支笏湖の湖底を再現した支笏湖大水槽があり、令和７年度は約32万人が訪れました。また、水族館の目の前には「インディアン水車」として広く知られているサケの捕魚車があり、秋にはサケの捕獲風景を間近で見ることができます。

観光全般を取り巻く環境が日々変化する中、多様化する旅行スタイルや観光ニーズを見据え、千歳市が有する交通アクセスの優位性と自然・農業・産業など様々な観光資源を生かし、観光客受け入れの

ための環境の充実を図ることで、引き続き地域資源の持続的な発展と
魅力あふれる「観光都市千歳」の形成に努めていきます。



樽前山と風不死岳



支笏湖の桜



支笏湖でのアクティビティ



秋の支笏湖

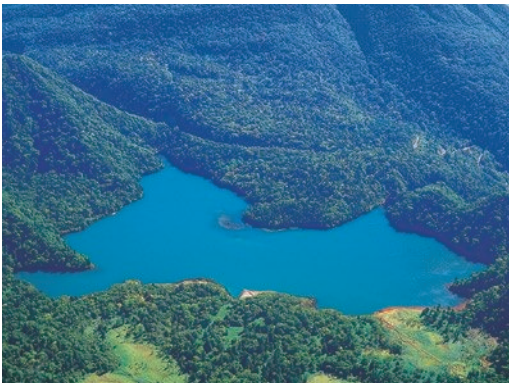


冬の支笏湖



美笛の滝

※現在は進入路が通行止めになっています。



オコタンペ湖

支笏湖周辺マップ



ヤマセミ



アカゲラ



美笛キャンプ場



支笏湖温泉

189　国立公園支笏湖

(1) 支笏湖周辺の概要

支笏湖は、周囲約42㎞、面積約77㎢、最深度約360m（日本第２位）で、洞爺湖とともに昭和24（1949）年に国立公園に指定されています。支笏湖は公園の景観の中心をなすカルデラ湖であり、後志火山群の東端に生成されたカルデラは本来、最大径東西約15㎞・南北約13㎞のほぼ円型をなしていましたが、南岸に風不死岳（1,103m）、北岸に恵庭岳（1,320m）が噴出し、長径13㎞・短径５㎞のほぼ東西に長いマユ型となっています。流入河川（通称：美笛川）、流出河川はともに千歳川で、支笏湖から流れ出た清流千歳川は東へと続き、まちに潤いをもたらしています。

湖は春の新緑に始まり、ヒメマス（チップ）釣り、キャンプ、登山、サイクリング、紅葉で彩られる原始林等、多彩な季節の移り変わりがあり、湖畔にある温泉にも毎年多くの来遊者をみています。

交通も苫小牧市から25㎞、札幌市から50㎞と距離も近く、千歳市からは路線バスも運行しています。

観光課

(2) 風不死岳（1,103m）

風不死岳は、支笏湖の南岸に位置し、山の名はアイヌ語でフップ・ウシ（トドマツのあるところ）から由来しています。その名のとおり、山頂近くまでトドマツやエゾマツ、落葉広葉樹を交える森林に覆われているため、湖水の風景に四季折々の彩りを添えています。

観光課

(3) 樽前山（1,041m）

樽前山は、支笏湖の南岸に位置し、山の原名はアイヌ語でオフイヌプリ（燃える山）、樽前川の原名タオロマイ（高岸あるもの）から由来しています。頂上にはプリン型のドーム（溶岩円頂丘）があることで有名です。これは明治42（1909）年４月の大爆発の際、粘着性の強い酸性の溶岩を噴き出したため、遠くまで流れ出さずに火口近くに盛り上がったもので、高さ約130m最大直径は約450mもあります。樽前山には、以前にも小さなドームがありましたが明治７年の爆発で吹き飛んでしまい、現在のドームができました。僅かな時間にこのような溶岩丘を生じる現象は、西インド諸島のモンプレー火山（1902～1903年溶岩岩尖生成、現在は消滅）や洞爺湖畔の昭和新山（昭和18～20年生成）とともに世界的にも珍しく、学術的にも貴重なもので国立公園特別保護地区に指定されていますが、近年の火山活動の活発化によりドーム周辺が立ち入り禁止等の登山規制がなされています。

観光課

(4) 恵庭岳（1,320m）

恵庭岳は支笏湖の北岸に位置し、山の名はアイヌ語の「エ・エン・イワ」（頭のとがった岩山）から由来しています。支笏湖周辺では最も高い円錐型火山で頂上付近に東向きの火口があり、火口より東方に延長した深い亀裂がポロピナイ沢となって湖岸に達します。この亀裂には数箇所の噴気孔があります。ポロピナイから４㎞、徒歩で上り３時間、下り２時間30分で頂上からの眺望は支笏湖全景と日高山系・石狩平野・札幌などを望めますが、平成15（2003）年十勝沖地震の影響により山頂部の一部が崩落し登山道への落石があり、第２見晴

台（８合目と９合目の間に位置）から山頂までは登山規制がなされています。

観光課

(5) 紋別岳（866m）

麓が支笏湖温泉として展開しているこの山は、上り約２時間、下り約１時間半と比較的短時間で登ることができる山です。山頂には、通信用の鉄塔等が立っており、保守管理用の車道があります。

※一般車両は通行止めになっています。

観光課

(6) 苔の洞門

支寒内の唐沢（からさわ）にあるこの洞門は、1739年の樽前山大噴火の堆積物が浸食されてできた回廊状の地形で、その切り立った両岩壁に約80種類の蘚苔類（せんたい）が密生している様は見事な景観です。

圧倒的に広い面積を占めているのはエビゴケで、次いでタカネツボミゴケ、ジャゴケの順に大きな群落が見られます。この群落は適当な温度、湿度と日照量によって形成されたものとして学術的にも貴重です。2014年８月、日本蘚苔類学会「日本の貴重なコケの森」（日本のコケ100選）に認定されました。

2014年発生の大雨災害により長期閉鎖をしておりましたが、安全性が担保できない状況から、令和元年度に苔の洞門の観光施設としての開放を断念し、今後は人工物の撤去を行い、石狩森林管理署に土地の返地を行うことが決定しました。

観光課

(7) 野鳥の森

野鳥に親しみながら、いろいろな野鳥やその生態について観察し、野鳥から多くのことを学ぶために開放された約100haの森林で支笏湖温泉から中モラップに至る国有林内にあります。野鳥の森の中には、観察のための歩道や、観察舎などが設けられていますが、災害のため、現在は野鳥観察舎から約400m区間のみが利用できます。

観光課

(8) オコタンペ湖（特別保護地区）

北海道３大秘湖といわれるオコタンペ湖は、支笏湖ができた後に恵庭岳の噴出によりこの山の西北麓に生まれた周囲４㎞、湖面標高599m（支笏湖より351m高い）の小さな湖ですが、湖の西には黒々としたエゾマツ、トドマツの原始林に覆われた漁岳、小漁岳の山裾が迫ります。水の色はエメラルドグリーンで、早春の残雪、盛夏の深緑、また、秋の紅葉と四季折々の姿で湖面に彩りを添えているところは、まさに絶景で支笏洞爺国立公園最大の原始境との折り紙が付けられています。

なお、オコタンペ湖は特別保護地区等に指定されているため、立入禁止です。道道78号線沿いに設置されている展望台から見学することができます。

観光課

(9) キャンプ場

ア　モラップキャンプ場

昭和33（1958）年市営野営場として道から移管を受けて開設し、平成９年度からは環境省が所管しています。山頂に溶岩ドームを形成した活火山樽前山を仰ぐこのキャンプ場は、支笏湖一の砂原として都会の喧騒を離れ自然に親しむキャンパーにとって絶好の憩いの場です。

開設期間　４月下旬～10月上旬

施　　設　フリーサイト
炊事場　トイレ　街灯　駐車場　管理棟

利用料金　（ア）キャンプ場管理費（１人１泊）大人 1,300円　小学生以上　700円
４歳以上（幼児）　500円
（イ）キャンプ場管理費（日帰り・１人）　大人　1,000円
小学生以上　500円
４歳以上（幼児）　350円

そ の 他　事前予約制

イ　美笛キャンプ場

通称・美笛川河口付近にあり、道内でも数少ない車の乗り入れができるオートキャンプ場として､昭和52（1977）年７月に開設されています。湖と川と森林に囲まれ、釣り、散策等自然に親しむキャンパーにとって絶好の憩いとなっています。

開設期間　４月下旬～10月下旬

施　　設　管理棟　トイレ　炊事場　街灯

利用料金　（ア）キャンプ場使用料（１人１泊）　市内　大人1,000円　小中学生　500円
未就学児童（４歳以上）200円
市外　大人2,000円　小中学生1,000円
未就学児童（４歳以上）400円
（イ）キャンプ場使用料（日帰り・１人）　市内　大人　500円　小中学生　200円
未就学児童（４歳以上）100円
市外　大人1,000円　小中学生　400円
未就学児童（４歳以上）200円

そ の 他　事前予約制

観光課

190　王子製紙千歳川発電所

支笏湖より流れ出る千歳川の水を落ち口付近で調整し、暗渠（あんきょ）送水路により水溜に誘導、第１発電所へ通します。第１発電所と、その下流約10㎞の間に４か所の発電所を設け出力最大合計37,000kw、平常17,850kwの電力を発生させ、苫小牧工場へ送電しています。

第１発電所は明治43年に完成しましたが、５か所の発電所用建設資材や製紙原料輸送のため苫小牧工場との間に軽便鉄道が通っていました。現在、千歳川落ち口に鉄橋が残り、鉄道跡はサイクリングロードとして活用されています。

第１発電所水溜付近は、春は桜、秋は紅葉と四季それぞれの風景は美しく、谷底を打つ水のこだまと飛び交う小鳥のさえずりなど、訪れた人を魅了します。

発電量などについては**第10章　93　王子製紙千歳川発電所**を参考にしてください。

王子製紙苫小牧工場

191　捕魚車（通称インディアン水車）

ＪＲ千歳駅から東へ約１㎞の距離にある道の駅サーモンパーク千歳に隣接して設置されています。この捕魚車は、（一社）日本海さけ・ます増殖事業協会が遡上するサケを捕獲するために設置しているもので、通称インディアン水車と呼ばれ、千歳の秋の風物詩として知られています。毎年秋になると千歳川を梁でせき止め、１か所だけ魚道を開けておき、その魚道をそ上するサケを水車で捕獲します。

明治29（1896）年、青葉公園下付近に設置されたのが最初で、その翌年に根志越（現在の花園）に移設され、その後千歳川護岸工事に伴い、現在のサケのふるさと千歳水族館側に設置されました。

捕魚車は、伊藤一隆が米国西海岸のコロンビア川水系で実見したもので、ここで捕獲されたサケは国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所さけますセンター千歳さけます事業所に運ばれ採卵受精し、ふ化した稚魚は翌春、千歳川に放流され３～５年で回帰します。千歳事業所では、平成６（1994）年に明治時代のふ化室を再現した「千歳さけますの森さけます情報館」が建設されサケの一生を学習することができます。

観光課

192　道の駅サーモンパーク千歳

サーモンパークを道内で85番目の道の駅として登録したものです。

サーモンパーク内には、淡水では国内最大級の巨大水槽を有し、四季折々に変化する千歳川の中を観察できる水中観察ゾーンでサケをはじめとした様々な淡水魚の生態を観察できる「サケのふるさと千歳水族館」があり、秋には千歳川で「インディアン水車」と呼ばれる水車を利用したサケの捕獲風景を見ることができます。

道の駅では、飲食、物販、案内コーナーなどを集約した地域振興施設の建設や、利用しやすい駐車場の整備などを行い、平成27年８月８日にリニューアルオープンしました。

観光課

193　サケのふるさと千歳水族館

(1) 施設概要

所 在 地　花園２丁目　サーモンパーク千歳内
構　　造　鉄筋コンクリート造　地上３階地下１階
面　　積　建築 1,511㎡　延床 2,992㎡
開　　館　平成６年９月10日
利用期間　通常　午前９時～午後５時　　冬季時短営業　午前10時～午後４時
※年末年始除く（またメンテナンスのため休館している場合あり）
主要施設　地階　世界の淡水魚コーナーや、千歳川の水中を直接見ることができる水中観察ゾーン
１階　北方圏の淡水魚を展示する大・中・小水槽・支笏湖大水槽
２階　展示室・学習室

（公財）千歳青少年教育財団

（2）利用状況の推移

年　度	3	4	5	6	**7**
利用者数	162,854	288,128	269,716	313,547	**321,535**

（公財）千歳青少年教育財団

194　支笏湖遊覧船舶の概要

船　舶　名	トン数	出力（KW）	旅客定員
客船エメラルド（ＦＲＰ）	18	117.68	50
客船サファイア（ＦＲＰ）	17	117.68	50

1　令和８年４月１日現在
北海道運輸局室蘭運輸支局苫小牧海事事務所

195　観光入込客数

（1）市内観光入込客数の推移

（単位　千人）

年　度	観光客入込数			左の内訳		宿泊客延べ数（千人泊）	
	計	道外	道内	日帰り客数	宿泊客数		うち訪日外国人
5	1,895.4	524.9	1,370.5	1,615.6	279.8	347.4	135.1
6	1,845.1	594.7	1,250.4	1,532.3	312.8	386.8	201.0
7	**2,085.0**	**827.1**	**1,257.9**	**1,697.4**	**387.6**	**480.6**	**256.7**

観光課

（2）市街地観光入込客数の推移

（単位　千人）

年　度	観光客入込数			左の内訳		宿泊客延べ数（千人泊）
	計	道外	道内	日帰り客数	宿泊客数	
5	1,183.0	350.4	832.6	1,032.6	150.4	193.8
6	915.8	377.6	538.2	740.0	175.8	227.1
7	**1,050.4**	**459.0**	**591.4**	**798.2**	**252.2**	**326.3**

観光課

（3）支笏湖観光入込客数の推移

（単位　千人）

年　度	観光客入込数			左の内訳		宿泊客延べ数（千人泊）
	計	道外	道内	日帰り客数	宿泊客数	
5	712.4	174.5	537.9	583.0	129.4	153.6
6	929.3	217.1	712.2	792.3	137.0	159.7
7	**1,034.6**	**368.1**	**666.5**	**899.2**	**135.4**	**154.3**

観光課

196　市内宿泊施設の概要

地　　区	施設数	客室数	収容人員
市街地・周辺地区	25	2,958	5,563
支笏湖地区	7	205	705

1　令和８年４月１日現在
観光課

197　ホテル・旅館の概況（地区別）

(1) 市街地・周辺地区

ホテル・旅館名	電　　話	客室数	収容人員
ＡＮＡクラウンプラザホテル千歳	２２－２３１１	438	818
ホテルルートイン千歳駅前	050-5847-7579	330	490
ホテルグランテラス千歳	050-1807-3126	256	415
ＪＲイン千歳	２５－８３５７	185	364
ベストウェスタンプラスホテルフィーノ千歳	４０－００３３	154	362
ポルトムインターナショナル北海道	４５－６０１２	171	342
エアターミナルホテル	４５－６６７７	188	329
ｍｉｎｎ千歳	050-3131-8822	51	321
千歳ステーションホテル	４９－３０００	138	275
クイーンズホテル千歳	２６－０００１	150	245
SMA・MO inn CHITOSE	２８－８８１１	60	240
ホテルクラッセステイ千歳	２５－５８３７	150	221
ＫＯＫＯ　ＳＴＡＹ　千歳	２４－２１１１	153	180
千歳エアポートホテル	２６－１１５５	89	145
ホテルエリアワン千歳	２６－１１５６	55	128
千歳第一ホテル	２７－２０００	119	123
ホテルかめや	２３－２００２	52	103
ホテルラフィナート千歳	２９－３０３０	43	94
ピエス千歳Ｓ１	0120-949-484	26	90
UCHI CHITOSE AJiTO	011-374-4638	17	81
ピエス千歳Ｓ４	0120-949-484	32	64
ビジネスホテルホーリン	２３－１１６６	34	46
千歳ホテル遊悠館	２５－５２２５	35	45
新千歳空港温泉	４６－４１２６	11	22
ＪＲモバイルイン千歳	011-374-4638	20	20

1　令和８年４月１日現在
2　ホテル等名は収容人員順で掲載した
3　**資料２（２）ア**に再掲
観光課

（2）支笏湖周辺

ホテル・旅館名	電話	客室数	収容人員
丸駒温泉旅館	２５－２３４１	55	248
しこつ湖鶴雅リゾートスパ水の謌	２５－２２１１	49	198
休暇村支笏湖	２５－２２０１	38	88
支笏湖第一寶亭留翠山亭	011-598-5252	24	79
しこつ湖鶴雅別荘碧の座	２５－８０２０	25	60
レイクサイドヴィラ翠明閣	２５－２１３１	8	20
雨ノ日と夕やけ	011-598-5252	6	12

1　令和８年４月１日現在
2　**資料２**（2）**イ**に再掲
観光課

198　温泉

温泉名	開湯	住所	泉質	効能
丸駒温泉	大正 4	幌美内	塩化物泉 （含土類・石膏－食塩泉）	神経痛、関節痛、筋肉痛、 冷え性、慢性婦人病等
松原温泉	昭和44	泉郷	含硫黄ナトリウム－塩化物泉 （ナトリウム・塩化物泉）	リウマチ性疾患、神経痛、 皮膚病等
新千歳空港温泉	平成23	美々	ナトリウム・塩化物泉 （弱アルカリ性温泉 Ph8）	神経痛、関節痛、筋肉痛、 冷え性、疲労回復
支笏湖温泉	平成26	支笏湖温泉 （第二号泉源）	ナトリウム－炭酸水素塩温泉 （低張性弱アルカリ性低温泉）	神経痛、冷え性、打撲、 睡眠障害、疲労回復、 皮膚乾燥症等

1　令和８年４月１日現在
2　温泉名は主なものを開湯順で掲載した
観光課





スカイ・ビア＆ YOSAKOI 祭



航空祭



千歳 JAL 国際マラソン





捕魚車「インディアン水車」
とサケのふるさと千歳水族館



千歳・支笏湖氷濤まつり